

事業レビューシート (EBPM調書)

事業名	文化芸術特別企画助成費		課・担当	文化振興課 総務・財団担当		担当者(内線)	
EBPMによる検証(ロジックモデル)							
①将来像 (目指す姿)	芸術性の高い舞台作品や新たな芸術表現に果敢に挑む作品などの鑑賞機会を多くの県民に提供するとともに、地域との連携交流を推進することにより、心豊かな県民生活や活力ある社会の実現に貢献する。(埼玉県文化芸術振興基本条例)		③ 課題 (将来像と現状との差についての分析)	彩の国さいたま芸術劇場はゴールド・シアター、ネクスト・シアターの解散、そして新芸術監督の就任という大きな節目を迎え、これまでの県内外からの高い評価を維持、向上させていくための事業展開が求められている。 また、劇場は大規模改修により令和4年10月から令和6年2月まで約1年半閉館することから、劇場再開時に県内各地域から足を運んでいただくためにも、県全体への力強い発信が必要不可欠である。 そのためには、国内外から高い評価を受けてきた「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の後続シリーズの実施や近藤芸術監督がテーマに掲げる「クロッシング」による独自性、先進性のある舞台作品に加え、地域との連携交流活動を強力に推進することで、新たな彩の国さいたま芸術劇場の柱として確立、発展させていく必要がある。			
② 現状	蜷川幸雄氏を芸術監督に迎えたことを契機として、平成18年度から特に芸術性の高い作品の提供に対して、文化芸術特別企画助成を実施してきたが、本事業の助成対象事業の一部であったさいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアターについては令和3年度の公演をもっていずれも解散した。 令和4年度からは芸術監督に近藤良平氏が就任し、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」のほか、近藤氏がプロデュースするジャンル・クロスの舞台芸術作品を対象事業としている。近藤芸術監督の新たな事業展開による県内外への強力な発信が求められている。						
④ 投入 (インプット=予算)		⑤ 事業概要 (アクティビティ)		⑥ 事業実績 (アウトプット)		⑦ 事業実績から得られる成果 (アウトカム)	
R4予算額	80,637	埼玉県芸術文化振興財団が自主的に企画・制作する文化芸術特別企画事業への助成を実施することにより、芸術性が高い作品の鑑賞機会を県民に提供するとともに、県民の創造的な文化芸術活動の活性化を促進する。	【活動指標】 ①公演実施数 ②公演鑑賞者数		【成果指標】 ①公演満足度(目標:90%以上) ②文化芸術活動を鑑賞している県民の割合(目標:令和7年度までに70.0%) ③文化芸術活動を行っている県民の割合(目標:令和7年度までに40.0%) ※②…県文化芸術振興計画の指標 ③…県文化芸術振興計画及び県5か年計画の指標		
うち一財	80,637		【活動実績】 ①R4(見込)4事業32公演、R3 3事業39公演、R2 3事業11公演、R1 5事業42公演、H30 4事業48公演 ※R2 新型コロナの影響		【成果実績】 ①R3 96.9%、R2 90.0%、R1 95.8%、H30 97.4% ②R3 32.1%、R2 41.8%、R1 55.9%、H30 54.9% ③R3 24.0%、R2 24.9%、R1 32.3%、H30 24.4% ※①…R2 新型コロナの影響 ②③…R3、R2 新型コロナの影響		
R3予算額	86,227		②R4(見込)20,021人、R3 17,818人、R2 1,006人、R1 10,990人、H30 18,558人 ※R2、R1 新型コロナの影響				
うち一財	86,227						
⑧ 事業実績(アウトプット)が成果(アウトカム)に結び付くことを示すロジック及び根拠							
<p>【定量的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術性の高い舞台作品や新たな芸術表現に果敢に挑む作品などを鑑賞する機会を多くの県民に提供するため、公演実施数をアウトプットに設定(R4:4事業32公演)。また、芸術性の高いシェイクスピア演劇作品や新たな舞台表現に果敢に挑むジャンル・クロス作品を制作公演することで、公演鑑賞者数の増加(R4:20,021人)、公演満足度を向上させ(目標:90%以上)、文化芸術活動を鑑賞している県民の割合の向上につなげる(R1:55.9%→R7:70%)。 ・さらに、近藤芸術監督が掲げる地域との連携交流事業を推進していくことにより、広範囲な地域にわたる多様な世代の県民への文化芸術を鑑賞・実践する機会を拡大し、文化芸術活動を鑑賞している県民の割合(R1:55.9%→R7:70%)及び文化芸術活動を行っている県民の割合の向上(R1:32.3%→R7:40%)につなげる。 <p>【定性的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の上演や近藤芸術監督が掲げる「クロッシング」をテーマにした新たな舞台表現を継続して実施することで、県民に等しく優れた文化芸術を鑑賞する機会の充実が図られるとともに、地域との連携交流を推進することにより、文化芸術で心豊かな県民生活と活力ある社会の実現に貢献する。(埼玉県文化芸術振興基本条例) 							

事業手法に係る自己検証

検証項目		評価	評価に関する説明
県費投入の必要性	事業目的が730万県民や社会ニーズを的確に反映しているか。	○	芸術劇場は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底の上、質の高い舞台芸術作品を創造・発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を引き続き実施している。
	市町村、民間等に委ねることができない事業か。	○	公立劇場として、県民が質の高い舞台芸術作品を、多大な負担を強いられることなく鑑賞できる機会を増やすためには、事業の採算性のみにとらわれることなく、自身で総合的なプロデュースができるノウハウを持った芸文財団が実施することが必要である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	埼玉県芸術文化振興計画の主要施策に「彩の国さいたま芸術劇場による芸術性の高い舞台作品の提供」が位置づけられており、実現のために不可欠な事業である。
事業の効率性	一般競争入札、指名競争入札、プロポーザル方式による契約のうち、一者応札となったものではないか。競争性のない随意契約となったものはないか。	—	
	受益者負担は適切に設定されているか。	○	公の施設で実施する公演であることをもって安価な料金とせず、採算性も考慮しながら料金設定を行っている。
	使途が事業目的達成にあたり必要なものに限定されているか。	○	補助の内容は公演に係る経費、人件費に限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。	—	
	既存事業との重複はないか。国、県、市町村で同様な事業を実施し二重行政となっていないか。	○	市町村にもホールが存在しているが、「創造する劇場」として埼玉県から新たな舞台芸術作品を発信している劇場は県内にはない。
	コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	公演の大道具制作など単に外部委託するのではなく、財団職員で対応することにより質を保ちながら節約するなど経費節減している。また、事業終了後に効果検証等の実績評価を行い、高い芸術性と収支のバランスを図るように努めている。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	芸術性の高い舞台作品や話題性、新規性が高い作品など全国や世界に向けて発信する事業が実施されている。こうした取組みが評価され、地域の芸術拠点として文化庁の「芸術・音楽堂等機能強化推進事業」に採択されている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	—	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	令和2年度においては新型コロナウイルスの影響により事業の中止が相次いだが、これまでは実施計画に沿って公演が行われており、彩の国シェイクスピアシリーズについては、常に好評を博し看板事業となっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	実施してきた事業は蜷川レガシーとして広く認識され、知名度の高いものとなっている。引き続きこれを活用して埼玉からの芸術文化の発信を行っていく。

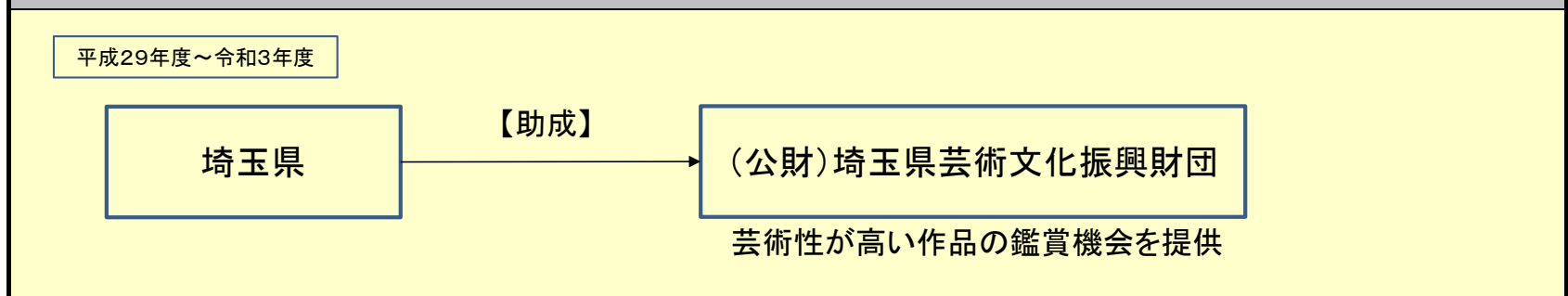
総合評価 **A**

関連事業	関連する事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右欄に記載)		
	部局・課名	事業名	役割分担の内容

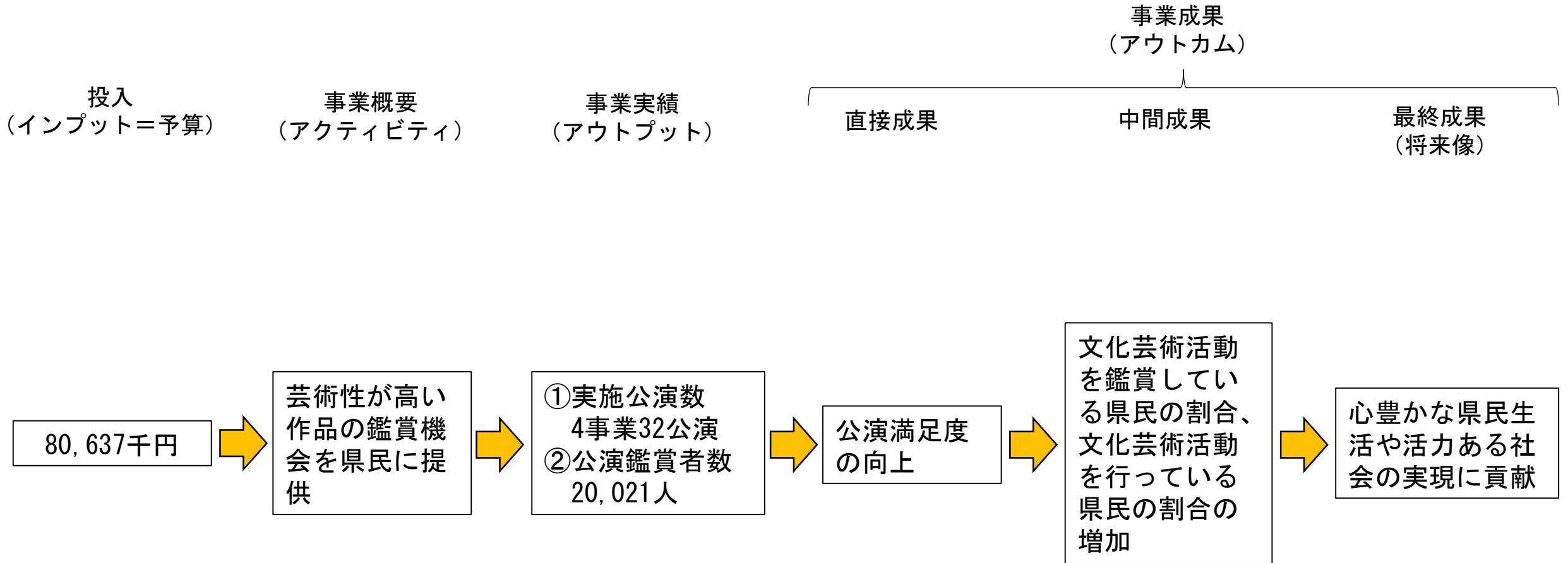
事業レビューシート(EBPM調書)

予算執行状況		当初予算額		補正予算額		最終現計予算額		執行額 (決算額)	執行率
		事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)		
令和3年度	文化振興事業費	59,351	59,351	0	0	59,351	59,351	37,673	63.5%
	運営費	26,876	26,876	0	0	26,876	26,876	26,876	100.0%
令和2年度	文化振興事業費	74,188	74,188	0	0	74,188	74,188	62,779	84.6%
	運営費	26,876	26,876	0	0	26,876	26,876	26,876	100.0%
令和元年度	文化振興事業費	80,639	80,639	0	0	80,639	80,639	80,639	100.0%
	運営費	26,876	26,876	0	0	26,876	26,876	26,876	100.0%
平成30年度	文化振興事業費	85,883	85,883	0	0	85,883	85,883	64,326	74.9%
	運営費	26,876	26,876	0	0	26,876	26,876	26,876	100.0%
平成29年度	文化振興事業費	85,883	85,883	0	0	85,883	85,883	68,189	79.4%
	運営費	26,876	26,876	0	0	26,876	26,876	26,876	100.0%

資金の流れ(資金が県からどのような経由で流れ、受取先が何を行っているか。)※スキーム図と具体的な交付先(H29からR3まで)を明記



ロジックモデル（フローチャート）



事業名：文化芸術特別企画助成事業費

事業費：86,227 千円 所管課：県民生活部文化振興課

事業概要

埼玉県芸術文化振興財団が自主的に企画・制作する文化芸術特別企画事業への助成を実施することにより、芸術性が高い作品の鑑賞機会を県民に提供するとともに、県民の創造的な文化芸術活動の活性化を促進する。

(1) 文化振興事業費 59,351 千円

(2) 運営費 26,876 千円

事務局の説明

<EBPMの観点からの課題>

指定管理者制度で実施している公演に加えて、本事業において公演を実施すべきとする課題が設定されていない。

直接成果（「公演満足度の上昇」）と中間成果（「文化芸術活動を鑑賞している・行っている県民の割合の増加」）が繋がっていない。

公演実施数及び公演鑑賞者数が公演満足度の向上につながるというエビデンスは認められない。

チケット収入で経費をまかなえておらず、適切な負担となっているとは言いがたい。

担当部局の説明

<事務局の提示する課題についての説明>

この事業は、芸術文化振興財団の芸術監督に故蜷川幸雄氏を迎えたことを契機に、平成18年からスタートしたもので、特に芸術性の高い舞台作品や、話題性新規性が高い作品を制作し提供する事業に対して助成するものである。

芸術劇場は、ゴールドシアター・ネクストシアターの解散、そして新しい芸術監督の就任という大きな節目を迎え、心豊かな県民生活や活力ある社会を実現していくために、これまで築き上げてきた県内外からの高い評価を維持向上させていくための事業展開が必要と考えている。

助成対象作品については、提供することが目的ではなく、見ていただいた方に満足していただく必要があるため、公演満足度を成果指標としている。そして、口コミなどにより周囲の方へと波及することで、県民の文化芸術への関心が高まり、その結果、文化芸術活動を鑑賞又は行っている県民の割合の向上につながり、それがひいては条例にも規定している心豊かな県民生活や活力ある社会の実現に繋がるものと考えている。

議事の概要

<A委員>

委員：県民が認知していない事業では県民が文化芸術活動に関心を持つようになるとは考えられないが、県民の認知度はどのくらいあるのか。

担当部局：HP等の広報媒体で周知しているところだが、認知度については把握していない。

委員：県民に文化芸術に触れてもらい、認知してもらうために、県内を巡回すべきではないか。

担当部局：シェイクスピア作品は特殊な舞台設備等が必要であり、県内各地で行うことは難しい。

委員：この劇場は指定管理者制度であり、活動の一環として入場料を取って運営している。入場料だけで賄えないのであれば、コンテンツの配信や広告料を取るといった手法もある中で、なぜこの部分だけの特出しして赤字補填的に助成金を出す必要があるのか。

担当部局：製作費が高額であるシェイクスピアシリーズやチケット収入が見込みづらいゴールドシアターなど、民間が手を出しづらいところは行政が取り組むべきと考える。なお、シェイクスピアシリーズは、全国を回って、埼玉だけが費用負担することがないよう工夫している。

< B委員 >

委員：県民に芸術を鑑賞させることで、どのような行動変容を狙っているのか。アウトカムの設定に論理的な飛躍があるため読み解けない。

担当部局：公演を鑑賞して満足し、周囲に伝えたり自分が文化芸術活動をやってみることで、豊かな生活、活力ある社会につながるのではないかと考えている。

委員：それを証明するには認知度等のデータをもとに本事業が最終成果にどの程度寄与しているかを分析することが重要である。今の段階ではデータがないので、まずは成果を測るためにもロジックを組み立てておく必要がある。

< C委員 >

委員：地域との連携交流活動というのがロジックモデルの中に位置付けられていないが、まだ行っていないのか。

担当部局：これから力を入れていきたい分野と考えており、まだ実施していない。

委員：シェイクスピアシリーズを一通り演じ終え、ゴールドシアターやネクストシアターのような県民参加型の要素もなくなっている中で、指定管理事業とは別に本事業を行わないといけないのはなぜか。指定管理の仕様書の中にこの事業内容も盛り込めばよいのではないか。

担当部局：文化庁からも独創的な取組として助成金をもらっていることから、指定管理事業の中ではなく、特別企画助成事業として取り組んできた。別建てで事業を行うことが助成金の条件かどうかは確認する。

委員の評価及び意見

< A委員 > B（廃止又は再構築すべき）

本来収益事業であり、自己収入で運営するのが原則。実質的な赤字補填になっているのではないか。

本事業への県民の認知度、新規の観客の獲得に係る指標がなく、エビデンスに基づく政策になっていない。

受益者に偏りがあることが見込まれる。一部の受益者のために公費を投入する根拠は乏しい。

芸術劇場が活動拠点であることを勘案すれば、県内全体への波及は見込めないのではないか。

< B委員 > B（廃止又は再構築すべき）

最終成果に至る因果関係が十分整理できておらず、本事業が最終成果の実現に効果的であるかどうかの判断が困難である。

公演満足度の向上が文化芸術活動を鑑賞している県民の割合等の増加につながるというのは論理が飛躍している。

成果を実現する手段としてみた場合、有効な事業であるか、疑問が残る。

<C委員>B（廃止又は再構築すべき）

芸術監督が著名でも公演の質が高くても、それが県民に支持されたり県民の芸術に対する関心を喚起したりするものでなければ正当化できない。芸術監督の知名度や狭い愛好家の中での公演に対する高評価は事業の成果ではない。「なぜシェイクスピアなのか」「なぜ埼玉県がやるのか」といった点が県民にクリアに説明できるようでなければならない。

ゴールドシアター等が解散したことで本事業の公益性は低下しており、地域連携事業等の取組が非常に重要。

本助成を廃止した上で、指定管理事業に統合し、同財団に創意工夫を促すことも選択肢として検討されたい。

有識者会議を踏まえた評価

【B（廃止又は再構築すべき）】

指定管理者制度で実施している公演に加えて、本事業において公演を実施すべきとする課題が設定されていない。

現状、受益者に偏りがあることが見込まれ、また県内全体への波及も見込めない事業となっており、県民の認知度、新規顧客の獲得等に係る指標がないことも踏まえると、エビデンスに基づく事業となっておらず、将来像を実現する手段としての有効性は認められない。

有識者の意見から考えられる方向性

リピーター率や劇場の認知度等の調査を行い、受益者の地域偏在等の状況を確認するとともに、指定管理事業とは別に事業を行う必要性について整理する。その上で、県民の認知度、新規顧客を獲得するための地域連携の強化等、受益者を全県に拡大するための仕組みを検討する。

【令和5年度当初予算】

予算額

【令和5年度】指定管理費

事業費	1,158,621 千円
うち一財	1,158,374 千円

【令和4年度】指定管理費

事業費	1,082,468 千円
うち一財	1,082,108 千円

【令和4年度】文化芸術特別企画助成事業費

事業費	80,637 千円
うち一財	80,637 千円

評価・意見を踏まえた対応 等

【評価・意見を踏まえた対応】

令和5年度当初予算の要求に向けて、有識者会議における評価・意見を踏まえた事業スキームを庁内で検討。

令和6年度のリニューアルオープン後を見据えて、収益性の高い取組について自主事業で実施することも視野に入れて検討。

【令和5年度当初予算への反映状況】

文化芸術基本法や劇場法をもとに、芸術劇場の役割を再整理し、地域貢献及び社会包摂を加えた。

それを踏まえ、令和5年度当初予算においては、地域貢献の取組として「埼玉回遊」を、社会包摂の取組として多様な世代・属性による芸術表現活動グループの設立に向けた準備を県の指定管理事業として実施することとした。

埼玉回遊については、近藤芸術監督が県内各地を訪れ、地元の人々と地域文化の掘り起こしを行い、地域文化に新たな付加価値、魅力を提案することで地域文化の振興を図る。また、この取組を通じて芸術劇場の各地域での認知度向上に努め、リニューアル後の集客につなげていく。

多様な世代・属性による芸術表現活動グループの設立については、年齢やジャンル、障害の有無などにこだわらないグループの設立準備を近藤監督のもとで行い、リニューアル後に実施する講演を通じて多様性に対する理解の促進を図っていく。